

## ピックアップ事例



### ちようかいネット（平成23年稼働）

酒田地区医療情報ネットワーク協議会（山形県）  
鶴岡地区医療情報ネットワーク協議会（山形県）

☎ 0234-26-5112（酒田地区） 0235-26-5111（鶴岡地区）

📄 [公式ホームページ](#)

※平成31年3月時点

#### 全体概要

- 概要
- 特徴
- 成功要因
- ネットワーク構築時の苦労
- 構築する方へのメッセージ

#### 計画Step

1. 地域課題、要求事項の抽出
2. 必要性の検討
3. 事業概要の決定
4. 事業運営主体の組織の設置
5. 個人情報保護方針などの作成
6. ガイドライン・標準化規格などの確認
7. システム化方針決定
8. 事業計画・収支計画の立案

#### 構築Step

1. 工程管理
2. 仕様書作成・調達
3. 要件定義・設計
4. 構築
5. テスト

#### 運用Step

1. 運用に向けた文書作成
2. システム運用保守体制決定

## 構築Step

### 1. 工程管理

工程管理は、導入ベンダーである（株）シーエスアイと（株）エスイーシー、各協議会事務局が担った。平成23年1月の試験運用開始まで連携内容の確認や動作確認を行い、試験運用段階では複数の施設からヒアリングを行った。

### 2. 仕様書作成・調達

以下システム構築事業者を決定し、事業者との連携を行いながら推進した。

#### 【酒田地区】

事業者名：株式会社シーエスアイ  
契約期間：平成22年9月～12月  
役割：システム導入、既存システムとの連携

#### 【鶴岡地区】

事業者名：株式会社エスイーシー  
契約期間：平成24年度  
役割：センター通信設備管理 セキュリティ管理 システム更新 データ集計 等

### 3. 要件定義・設計

先述「事業概要の決定」とも重複するが、開示コンテンツに関しては以下の項目を設定した。

#### 開示コンテンツの設定

- 3. 参加機関の募集・説明・契約
- 4. 参加患者募集
- 5. 評価・課題整理

#### 更改Step

- 1. 改善事項検討

- ・診療録（医師記録）、処方、注射、患者バイタル
- ・入院サマリー（退院時要約）
- ・放射線画像
  - CT・MR（JPEGとDICOM）単純X-P、核医学検査
  - PET-CT、シネアンジオ（動画で参照可）
- ・放射線読影レポート（キーフィルム添付）
- ・検体検査、細菌検査、病理報告書（切出しの病理画像添付）
- ・紹介状
- ・地域連携パスなどのファイル（Excel・Word）

（2019年現在では上記に追加して）

- ・看護サマリー
- ・内視鏡画像
- ・心電図

#### 情報公開用ゲートウェイサーバ

VPN装置と診療情報公開用サーバがセットとなったアプライアンスサーバとして以下の機能を有するものとした。

- ・サービスセンターとのVPN接続機能
- ・施設側オーダリング・電子カルテシステムとの接続機能
- ・医用画像管理システムとの接続機能
- ・高速レスポンスを実現するキャッシュ機能

#### 情報把握

紹介患者の情報を1画面で共有可能、開示病院間においては1画面で医療情報を共有可能とする

#### JLAC10を利用したサマリービュー機能

ローカルコードをJLAC10コードで紐付け、血液検査の42項目について病院をまたいで時系列表示を可能にする

#### スタアクライアントにおける機能

診療所の電子カルテも接続可能とし、公開用サーバは不要とする。また維持費用も無料とする

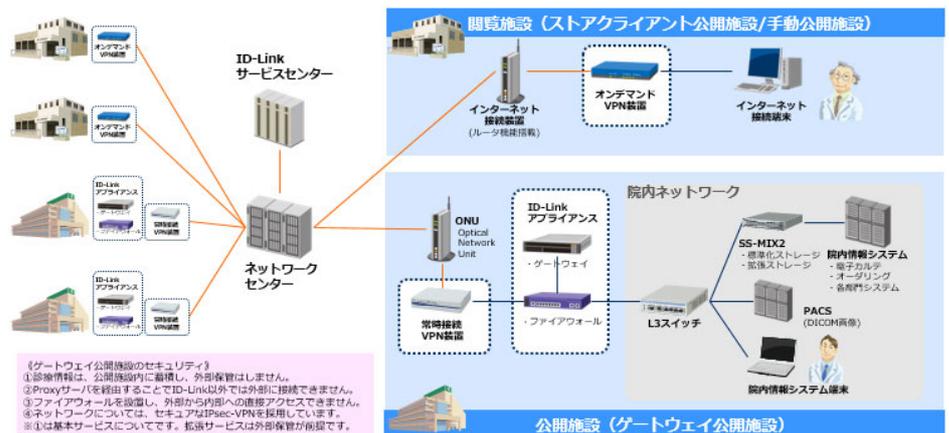
#### EMS機能

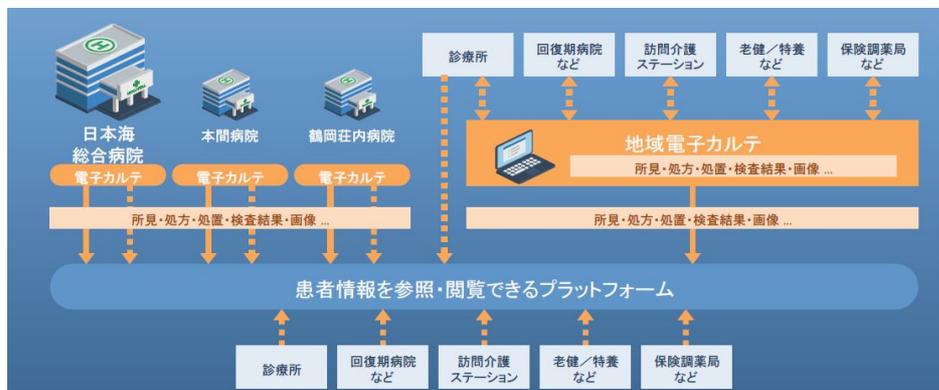
連携施設の患者ID番号が判明している場合、紹介元病院の患者IDをキーとして、救急対応での開示を許可している施設の診療情報取得・開示を自動的に行う。選択した連携施設の1ヶ月分の最新データの取得と開示が自動的に行われるものとする

#### （2016年3月より）ちょうかいネットとかかりん連携

日本海総合病院で導入した紹介予約システム「かかりん」との連携により、ID-Link からかかりんに移行して日本海総合病院の診療や検査の予約を可能とする。また、ID-Link 上で診療情報提供書の共有も可能とする

ネットワーク構成 システム構成図





## 4. 構築

酒田地区においては、平成22年5月に協議会（医師会、歯科医師会、薬剤師会、酒田市、庄内保健所、各参加病院で構成）を設立し、検討を開始。協議会下に、システムWG（医師、病院のシステム担当者等で構成）を設置し、構築事業者の選定、機能・連携する情報項目等の検討を行った。

構築は平成22年9月から12月までの3ヶ月で行った。どの情報を開示するか、連携費用を提示してシステムWGにて検討を行った。病院の部門システムの一部は標準規格での連携ができず、新規開発対応となったため、連携を見送り、標準的な連携を継続して要望することとした。診療録の開示について難色を示す医師もいたが、十分な説明を行い、理解を得られた。

## 5. テスト

平成22年12月に内部でのテストを行い、平成23年1月から3月まで複数の医療機関で試験運用を開始した。試験運用を行う中で出てきたDICOMダウンロードの手順等運用の課題を本稼働までに調整した。

[全体概要](#)
[計画Step](#)
[構築Step](#)
[運用Step](#)
[更改Step](#)

[← ピックアップ事例一覧へ戻る](#)

[← TOPへ戻る](#)

[ページの先頭へ戻る](#)

### 医療情報連携ネットワークはなぜ必要？

- 出発点は地域医療を良くしたいという思い
- 医療情報連携ネットワークの導入効果
- 利用者の声（導入効果）

### 医療情報連携ネットワークをどう作る？

- 医療情報連携ネットワークの構築手順
- 実施のポイント
- 利用者の声（苦労した点、成功要因）
- ガイドライン、書式例など

### 医療情報連携ネットワークの具体例を見る

- ▶ 医療情報連携ネットワークとは
- ▶ データで見る
- ▶ ピックアップ事例
- ▶ 事例を探す

- ▶ 構築手順
  - ▶ 構築手順について
  - ▶ Step1：計画
  - ▶ Step2：構築
  - ▶ Step3：運用
  - ▶ Step4：更改

- ▶ FAQ
- ▶ 用語集
- ▶ お役立ち情報
  - ▶ リンク集
  - ▶ 資料ダウンロード